

「物理探査ハンドブック増補改訂版」刊行に際して

公益社団法人物理探査学会会長
齋藤 秀樹

物理探査学会は、創立 50 周年の大きな節目を迎えた 1998 年に「物理探査ハンドブック」を刊行した。学会では周年事業の一環として、それまでも記念出版を継続的に行ってきた。「物理探査ハンドブック」刊行に際して、当時創立 50 周年記念出版委員会委員長であった芦田讓氏はその経緯を以下のように述べている。

『物理探査技術協会および物理探査学会では 5 年あるいは 10 年毎の節目にあたる年には記念出版物を発行してきている。1953 年（昭和 28 年）には 5 周年記念号を第 6 巻、第 3・4 号合併号として発行し、1958 年（昭和 33 年）には第 11 巻、第 4 号を 10 周年特別号として、当時としては世界に類をみない物理探査に関する網羅的でかつ高度な解説書が発行されている。多くの方々がこの本の思恵に浴されたことは疑いない。さらに 1968 年（昭和 43 年）には 20 周年記念特別出版として「最近における物理探査の進歩」を発行した。1978 年（昭和 53 年）には、30 周年記念行事の一環として物理探査用語辞典を、また、1989 年（平成元年）には、40 周年記念出版として図解「物理探査」を発行した。とりわけ図解「物理探査」は、わかり易い物理探査の解説書として現在でも好評を博していることは先刻ご承知の通りである。』

そして創立 50 周年のこの年には、学会は総力をあげて「物理探査ハンドブック」という大著を出版した。芦田讓氏は刊行の辞を以下のように締めくくっている。

『物理探査学会が過去 50 年間にわたって培ってきた技術とその成果を、ここに「物理探査ハンドブック」の形で集大成した。ここに述べた社会的な要望に応えるために、このハンドブックを十分に駆使し、さらなる研鑽と実績を重ねて、21 世紀における持続可能社会の建設に貢献できることを祈念するものである。』

「物理探査ハンドブック」は物理探査全般を網羅し、基礎理論からデータ取得技術、データ解析技術まで詳しく解説され、一方では、探査手法の歴史から最新の技術動向まで紹介されており、物理探査のすべてが著された唯一の書物であることは今も変わらない。

その後、物理探査学会は、創立 60 周年に「新版物理探査適用の手引き」および「最新の物理探査適用事例集」を、創立 65 周年には「新版物理探査適用の手引き」の英語版をそれぞれ出版した。「物理探査ハンドブック」は、こうした記念出版物の一つではあるが、物理探査を網羅した唯一の技術解説書であることを考えれば、学会としては継続的に改訂して最新版を提供していく必要があるだろう。今回の増補改訂は、出版物としての継続性を重視して周年事業とは切り離して行ったものであるが、今後も計画的な改訂が望まれる。

最新の内容に生まれ変わった本ハンドブックが、引き続き物探技術者・研究者の必携の書となり、物理探査技術のさらなる発展と普及につながることを期待する。